

## 新薬 ゾフルーザ (嘘ばかり！)

新薬は、常に従来の薬剤よりも、その長所を凌駕し、かつ要らない作用（いわゆる副作用と呼んでいるが）をなくす効果があるのだろうか？

なぜこのようなことを突然言い出したか？

ゾフルーザというインフルエンザの薬が開発された。従来のタミフルでは、ウイルスの駆逐に3日間かかるところ、ゾフルーザでは24時間でウイルスが消滅するという。通りすがりに見たTVのワイドショウで大々的に扱っている。フーン、というのが小生の感慨だったのだが、別のワイドショウでは、まともな医師が出演していて、もう少し正確な情報を発信していた。

この日本では、なぜか、新薬を使用するのがあたかも正義のようなものになっているが、厚生省の認可のために臨床試験をしたのは、わずかに1000人である。

今まで多くの薬剤が開発され、そして消えていった。なかには、思いっくだけでサリドマイドや血液製剤、クロロキンなどなど、多くの「薬害事件」とでも呼ぶべき被害者が苦しんできた。これらは、ほとんどが、「従来の薬剤を凌駕する効果」と宣伝されてきた。……当然のことながら、作用機序が異なれば、人間の反応もいくつもあり、副作用（……これが本当の意味での「薬の作用」なのかもしれないのだが）もいくつもあるのが自然である。だから、1000人程度の少人数では、すべてが表面化するわけではない。……24時間も正確なものかどうか、わかったものではない。

今シーズン、すでに100万人以上の人々がインフルエンザに感染している。ぼくは、ゾフルーザを使ったことはないが、以下の理由による。

新しい薬には、どんな作用があるか、見当もつかないものが現れる可能性がある。医師になりたての頃、薬局長から教えてもらった言葉に、「先生！薬というのは、発売されてから2~3年経ってから使用するものです。なぜなら、それまでに、日本中の医師が、ダボハゼのようにとびついて、アッとゆう間に数百万人の患者が使用しているだろう。すると、1000人程度では明らかにならなかった作用もでてくるだろう。みんな、インフルエンザだけをみているから気が付かないだけで、とんでもない作用がでてきているかもしれない。その「被害者になってもいい、というなら別だが、そういう危険を冒してまで使う必要はないのではないか」……そして今でもその教えを守っている。

ところで、今シーズンのように、インフルエンザが猛威を奮っている場合は、ひょっとすると、今シーズンだけで 300 万人も 500 万人も使用する人がいるかもしれない。

ボク個人の意見ですが、これには「大反対！」である。なぜなら、現在流行しているインフルエンザはタミフルでもイナビルでも、少し日数はかかるが、効果がある。ところがゾフルーザについては、現在流行しているインフルエンザのみならず、今後出現するかもしれない高病原性の、たとえば鳥インフルエンザにも有効かもしれないし、他の動物からのインフルエンザにも有効かもしれない。だから、そういうときのために、ゾフルーザは温存しておいて、ここぞというときに使用するべきではないか、と考えている。ただし、いろんな条件の人がいる（たとえばタミフルを使用できない人など）から、「絶対に使うな」とは言わないが、できれば残しておきたい。

表題の「嘘ばかり」というのは、この正月にゾフルーザを処方され、内服した患者が、5 日後に当院でインフルエンザテストを実施したところ、「陽性」であった。症状はなかったが、「24 時間」が嘘や！と言ったことからの引用です。

つまりワイドショーは、単なるコマーシャルであって、すべてを信用しきるのは間違っている、と言いたいのである。かれらも故意に嘘を報道したわけではないだろうから、責めるつもりはないけれども。 2019.01.22.

ところで、2 日前から、ゾフルーザの耐性株が発見され、「くすりは、途中で辞めずに、すべてを内服しろ」という。アホか！ ゾフルーザは、1 回、目の前で呑むだけじゃないか。途中もなにもない。

さらに、ゾフルーザ内服後、2～3 日後に 24 時間で消滅したはずのウィルスが活発化し、インフルエンザそのものが長引くことが、10 人に 1 人くらいあることがわかっている。この方が罪は重い。塩野義製薬は、ひとことも触れないが。

だから、小生がいたいことは、ダボハゼのように新薬にとびつくな、ということである。タミフルにしても、ある国では、当初から 70% 以上耐性だったという報告もある。

2019.01.28.